



※本資料は 2 月 28 日にスイスで発表されたプレスリリースの日本語抄訳版です。
詳細な情報は下記より英語原文をご覧ください。

<https://bit.ly/2EDIQoD>

アデコ 2018 年第 4 四半期は営業利益が堅調

— 生産性向上を促す「GrowTogether」プログラム導入促進により利益率が向上 —

[2019 年 2 月 28 日 スイス・チューリッヒ]

2018 年第 4 四半期サマリーとハイライト

- 既存事業売上高^{※1}は前年同期比 1%増、営業日数調整後の既存事業売上高はヨーロッパでの減速により前年同期比 1%減
- 人財紹介事業の既存事業売上高は 18%増と好調を持続
- 既存事業の粗利率は 19.1% ; 人財派遣のプライシングと構成比の好影響による 30bps の増加を含め前年比 70bps 増
- 一時的要因を除く^{※2}EBITA^{※3} 利益率は前年同期比 20bps 増の 4.8% ; 順調な基調成長と非経常損益によって、「New Ventures」プログラムでの投資とドイツにおける統合および規制による影響を相殺
- ドイツでにおけるのれんの計上 (2 億 7,000 万ユーロ) ; キャッシュフロー及び 配当に影響しない
- 2019 年 1 月の営業日数調整後の既存事業売上高は前年同期比 2%減で、2 月の売上高成長はわずかに減速

2018 年度サマリーとハイライト

- 営業日数調整後の既存事業売上高は前年同期比 3%増で、ヨーロッパでの成長の鈍化により下半期に減速
- 一時的要因を除く EBITA 利益率は前年同期比 40bps 減の 4.5% ; 「GrowTogether」プログラムの好影響によって、戦略的投資の増加、CICE 補助金の減額、そしてドイツにおける事業変革への支出を一部相殺
- 当期純利益はのれんの計上による影響で 4 億 5,800 万ユーロ
- キャッシュフローは引き続き堅調 ; 一株当たり配当案は前年同様の 2.50 スイスフラン
- 戦略と投資は軌道に乗っています : 「GrowTogether」プログラムは生産性と NPS スコアを向上しました ; 「New Ventures」プログラムはソリューションのポートフォリオを拡張し、シナジーを生んでいます。

アデコグループ CEO のアラン・ドゥアズは次のようにコメントしています。

「ヨーロッパの市場環境がより困難になるなか、アデコグループは良好な業績を収めることができました。売上高は営業日数調整後に 1%下落しましたが、フランス、イタリア、米国のジェネラル・スタッフィング市場など、数多くの主要地域において業績が改善しました。2018 年第 4 四半期には、前期における前向きな動きに支えられ、基調収益もさらなる改善を見せました。われわれは『Perform, Transform, Innovate』戦略への投資を行うことで、将来にわたって利益のともなう成長を実現するための強固な基盤を構築したことに加え、同戦略による初めての財務的な結果を残すことができました。同戦略はまた、2017 年と 2018 年の利益にも良い影響をもたらしています。

2018 年、私たちはまず『Perform』しました。2017 年に約束した通り、フランスでのシェアを拡大し、米国のジェネラル・スタッフィング事業を成長軌道に回帰させました。プライシング・プログラムもトラクションを獲得し、人財紹介市場でも大きく成長しました。ドイツでの事業がグループの業績に影響を与えましたが、現在事業強化に取り組んでいます。



そして私たちは『Transform』しました。「Grow Together」プログラムの規模が拡大し、生産性の向上を後押ししています。2018年第4四半期にはほとんどの地域で営業利益を改善することができました。われわれは社内プロセスの最適化とデジタル化を進めることで、コストを削減すると同時に、顧客企業と採用候補者の満足度向上を果たしています。これは2018年のNPSが5ポイント上昇したことからも明らかです。

最後に私たちは『Innovate』しました。General Assembly や Vetterly といった独自性の高い企業が「New Ventures」プログラムに加わりました。アデコグループの既存ブランドが持つ強みと合わせ、オンライン/オフラインを問わず HR ソリューション市場で全方位的なサービスを提供することで顧客企業をサポートします。

デジタル・トランスフォーメーションを継続するわれわれにとって、これからも人財こそが最大の資産です。人々の情熱と尽力があってこそ、チームとして成功を収めることができるのです。アデコグループを HR ソリューションのグローバルリーダーたらしめている世界 3 万 4000 人のアデコグループ従業員に感謝いたします」

*1：既存事業売上高とは米国会計基準以外の基準で、為替変動、M&A、事業部売却の影響を除く

*2：2018年のEBITAは、2018年第4四半期の一時的要因 5,900 万ユーロと、2018年度の一時的要因 9,300 万ユーロを含む；2017年のEBITAは、2017年第4四半期の一時的要因 400 万ユーロと、2017年度の一時的要因 700 万ユーロを含む

*3：EBITAは米国会計基準以外の基準で、償却前営業利益、のれん、および無形固定資産の減損を含む

<主な数値>

2018年第4四半期の損益計算書情報のサマリー

単位： 100万ユーロ	2018年 第4四半期	2017年 ^{*4} 第4四半期	変化率(%)： 報告数値	変化率(%)： 既存事業成長率
売上高	6,127	6,057	1%	1% ^{*5}
売上総利益	1,169	1,086	8%	5%
EBITA 利益 (一時的要因を除く)	294	278	6%	9%
EBITA 利益	235	274	-14%	-10%
当期純利益	(112)	297	-137%	
希釈 EPS (ユーロ)	(0.68)	1.78	-138%	
粗利率	19.1%	17.9%	120bps	80 bps
EBITA 利益率 (一時的要因を除く)	4.8%	4.6%	20 bps	40 bps
EBITA 利益率	3.8%	4.5%	(70) bps	(40) bps



2018年第4四半期のキャッシュフローおよび純負債情報のサマリー

単位： 100万ユーロ	2018年 第4四半期	2017年 第4四半期
利払いおよび納税前のフリー・キャッシュフロー ^{※8} (FCFBIT)	307	233
フリー・キャッシュフロー (FCF)	197	165
純負債	1,124	994
未払い日数	53	52
現金流動性 ^{※9}	84%	81%
EBITDAへの純負債	1.0x	0.8x

<主な数値>

2018年度通期の損益計算書情報のサマリー

単位： 100万ユーロ	2018年度	2017年度 ^{※4}	変化率(%)： 報告数値	変化率(%)： 既存事業成長率
売上高	23,867	23,660	1%	3% ^{※5}
売上総利益	4,433	4,346	2%	3%
EBITA利益 (一時的要因を除く)	1,080	1,158	-7%	-3%
EBITA利益	987	1,151	-14%	-10%
当期純利益	458	788	-42%	
希釈EPS(ユーロ)	2.77	4.66	-41%	
一株当たり配当金 ^{※5} (スイスフラン)	2.50	2.50	0%	
粗利率	18.6%	18.4%	20bps	10bps
EBITA利益率 (一時的要因を除く)	4.5%	4.9%	(40)bps	(20)bps
EBITA利益率	4.1%	4.9%	(80)bps	(60)bps

2018年度通期のキャッシュフローおよび純負債情報のサマリー

単位： 100万ユーロ	2018年度	2017年度
利払いおよび納税前のフリー・キャッシュフロー ^{※6} (FCFBIT)	903	939
フリー・キャッシュフロー (FCF)	569	637
純負債 ^{※7}	1,124	994
未払い日数	53	52
現金流動性 ^{※8}	84%	81%
EBITDAへの純負債 ^{※9}	1.0x	0.8x



*4：2018年に「ASU 2017-07 - 正味年金および退職後給付費用の表示」を採用したことにより、2017年の数値が修正されました。「販売費及び一般管理費」に表示されていた、2017年第4四半期の40万ユーロ、および2017年度の200万ユーロ以外の年金費用の構成要素は、「その他の収益/（費用）、ネット」に表示されています。また、2018年に「ASU 2016-18 - キャッシュフロー計算書（Topic 230）：制限付き現金」を採用したことにより、制限付き現金の期間の変化に合わせて2017年が修正されました。

*5：2018年第4四半期の既存事業の売上高の成長は前年同期比1%増、もしくは営業日数調整後で1%減。2018年度通期の既存事業の売上高の成長は前年同期比3%増、また営業日数調整後でも3%増。

*6：取締役会により提案された2018年の一株当たり配当

*7：フリー・キャッシュフローは米国会計基準ではない尺度で、営業活動からのキャッシュフローから設備投資を控除したもの

*8：純負債は米国会計基準以外の基準で、短期および長期の借入金から現金、現金同等物、および短期投資を控除したもの

*9：現金換算は米国会計基準以外の基準で、直近四半期のFCFBITを直近四半期のEBITAで割ったものを四捨五入して計算

*10：EBITDAへの純負債は米国会計基準以外の基準で、期末時点での純負債を一時的要因を除いた直近四半期のEBITAで割って減価償却費を加えたもの

2018年第4四半期の日本の状況

2017年第4四半期の日本での売上高は6%増の3億4,100万ユーロで、プロフェッショナル・スタッフリング事業と人財紹介事業が好調に成長しました。一時的要因を除くEBITAは2,300万ユーロ、EBITA利益率は前年同期比80bps増の6.7%でした。事業の組み合わせとプライシングによる好影響がITへの戦略的投資を上回りました。

【本件に関するお問い合わせ先】

アデコ株式会社 広報部

Tel. 050-2000-7024